

# 春秋会

ニュースレター

2024.6



## 今月の予定

- ・ 6/4 (火) 18:00～  
自分らしく働く研修
- ・ 6/21 (金) 12:00～  
幹事会

## ジャズ&グルメ企画のご報告

鈴木伸太郎 (74期)

令和6年5月26日、東天満において春のグルメ企画が開催されました。本企画は、昨年秋の企画に引き続き、第2回の開催となりましたが、たくさんの先生方にご参加いただき、大変盛況な会となりましたことをご報告させていただきます。

今回も前回同様、17時、18時、19時スタートの3つのグループに分かれ、東天満のおすすめ店を順番にはしごしていただき、参加者の皆様には美味しい料理とお酒を存分に楽しんでいただけたと思います。

まず全グループ1軒目は、ワインショップ「Salvis Wine & Records」にて美味しいワインを飲みながら、親睦委員の満村先生とプロのジャズミュージシャンのお二方によるジャズバンドの生演奏を聴いていただきました。サクソ、ギター、ウッドベースの奏でる音色は本当に心地よく、美味しいワインと共に全身が満たされ、何ともお洒落で贅沢なひとときを過ごしていただきました。選曲は、ジャズ定番曲からディズニーの名曲のアレンジなど非常に盛り沢山で、ジャズ初心者の方でも存分に楽しむことができました。ジャズバンド演奏は、本企画の中で今後も継続していきたいと考えております。生演奏に酔いしれ、美味しいお酒をご堪能したい方は、また是非とも奮ってご参加いただければと思います。



## 2024 年度 広報委員

- ・河野雄介（60期、委員長）
- ・小野順子（57期、担当副幹事長）
- ・西原和彦（55期）
- ・堀川智子（57期）
- ・溝上絢子（57期）
- ・浦寛幸（59期）
- ・松尾洋輔（59期）
- ・広瀬元太郎（60期）
- ・柳勝久（61期）
- ・山田寛子（65期）
- ・金星姫（66期）
- ・木場晶子（67期）
- ・田村瞳（67期）
- ・板崎遼（67期）
- ・吉留慧（68期）
- ・高一成（69期）
- ・根本俊太郎（70期）
- ・足立敦史（71期）
- ・村本健司（71期）
- ・河野哲平（71期）
- ・才木晴幹（72期）
- ・中岡さつき（72期）
- ・中西教子（72期）
- ・久井大輝（73期）
- ・佐々木崇人（74期）
- ・神澤鈴子（74期）
- ・今野敬文（76期）
- ・小林悠人（76期）
- ・永田駿（76期）



続いて2軒目も全グループ順番に同じお店に向かい、「からあげのハナサカ」にて美味しい唐揚げを堪能しました。こちらは、唐揚げ専門の有名店が立ち並ぶ大分県中津で修業を積まれた店主が営まれているお店で、その味はまさに絶品です。からっと揚げたジューシーな唐揚げを口に放り込み、ビールで喉に流し込むその瞬間はまさに至福の時間と言っても過言ではないでしょう！



3軒目は、グループごとにお店を別れ、「ゆにゆも」、「日本酒 福」にて、ゆっくりと美味しいお酒と料理を楽しんでいただきました。いずれも創作料理のお店ですが、まさに目にも美しい料理の数々が運ばれてきます。そして、一口食べてみると、お味の方もこれまた絶品で、どんどん箸が進み、どの



皿からも料理が一瞬で消え失せていきます。美味しい料理で気分も上がり、様々な期の先生方同士で会話も弾み、どのグループも非常に盛り上がっていたようでした。

グルメ企画は、昨年に引き続き2回目の企画となりましたが、今年も皆様、美食の夜を満喫していただき、とても楽しい時間を過ごしていただけたのではないかと実感しております。また、来年度以降も引き続き開催できればと考えておりますので、是非とも奮ってご参加下さい！



この後もたくさんの楽しい企画を盛りだくさん準備しておりますので、そちらの方にも是非ともご参加いただけますと嬉しいです！

親睦委員会一同、今後も精一杯楽しい企画を作ってまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

3月号の香港旅行でいったん終わったかに見えた島めぐりではあるが、不定期に投稿させていただくことにする。ひょっとしたら、島旅ではない話もできるかもしれないが、そのへんはご容赦いただきたい。

さて、琵琶湖が日本最大の湖であることはだれでも知っている。琵琶湖といえば滋賀県であるが、滋賀県の面積に占める琵琶湖の面積の比率は、過大評価される傾向があり、滋賀県の半分以上が琵琶湖だと考えている人もたまにいる。滋賀県のホームページによると琵琶湖の面積は670 km<sup>2</sup>で滋賀県の面積(4017 km<sup>2</sup>)のわずか6分の1だとのことである。そんなに小さいのかと思う比率である。これは、琵琶湖が滋賀県のど真ん中にあることによる錯覚である。隣の家との間隔が狭く、ほぼ敷地一杯に建っているような家でも、建ぺい率を実測してみると75%くらいだったりすることと似ている。

京都の隣県のど真ん中に位置する湖であるから、交通路としての役割は重要であった。現在では新幹線が疾走しているが、時代を遡れば遡るほど陸上交通のスペックは下がる。鉄道が開通する前の陸上交通手段は、馬とか籠、牛車し



がなく、その速度と輸送力は船舶と比べ物にならない。権力の基盤である経済力を保持するためには、琵琶湖の航路を掌握する必要があった。織田信長は、1579年(天正7年)琵琶湖の南東岸に安土城を築城する。

### 【地理院地図】

安土城の程近くに「沖島」という島がある。「おきしま」と発音し、近江八幡市に属している。琵琶湖には、沿岸にある埋立地状のものを除き、島が4つ存在する。沖島はその中で最大で、唯一定住人口を有している。湖の北部にある竹生島にもお寺や売店があるが、関係者は夜には帰るため、定住人口はゼロである。

沖島は日本で唯一「淡水湖上の有人島」であることを売り物にしている（多くの読者は知らないと思われるが）。「淡水湖の有人島」と結構限定がついて



いる。日本でも、湖上の島は結構ある。北海道の洞爺湖や屈斜路湖には大きめの島がある。ただし、これらは無人島である。次に、島根県の中海という湖に「大根島」という島があり、小学校や旅館もある。東海道新幹線が浜名湖を通過する付近でも、人が住んでいると思われる島っぽいものも見受けられ、唯一なのか疑問を呈するが、島根県の中海や浜名湖は淡水湖ではなく汽水湖（淡水と海水が混合している湖）ということで、沖島は唯一性を維持している。

#### 【地理院地図】

4月13日土曜日、前日の広報委員会で、「また、記事を書きますっ」と言ってしまった次の日、大阪から電車で1時間、13:17 近江八幡駅に降り立った。われながら、仕事が速い。ほかの仕事もこのくらいの速さで着手したいものだ。沖島への渡船に乗るためには、琵琶湖湖岸の堀切港まで行かないといけない。予定としては14:15 堀切港発の渡船に乗って14:25 沖島着、2時間半くらい探索して沖島17:00の船で帰ると考えている。堀切港は、近江八幡駅から10キロくらい北にあり、季節もいいので、駅前のレンタサイクル店で自転車を借りることとする。なんと、貸自転車はほとんどが売り切れていて、最後の2台しか残ってなかった。ビワイチ（自転車で琵琶湖を一周する行為）も流行っており、需要は多いようだ。

ギリギリで自転車を借りられたことに気分を良くし、ペダルも軽く北に向かって進み始めた。そういえば、昼食をとっていない。離島に行くときは食料に注意という教訓（第3話参照）がある。とつぜん、平和堂（スーパー）が現れた。滋賀と言えば平和堂であり、滋賀と琵琶湖の関係に匹敵するくらい親和性が高い。そこのフードコートでうどんを食ったり、トイレに行ったりした、結構時間を食ってしまった。この時点で、13:40位である。少し、急がねばならない、体感時速20キロくらいでこぎ続け、近江八幡の重要観光地となった「たねや」（お菓子屋）がやっているラ・コリーナの前を一顧だにせず爆走し、もう7割くらい来たかと思いい地図を見たが、まだ半分である。13:55、あと5キロを20分で到達できるのか、時速20キロで走れば理論上は可能だが、信号もあるし、疲れによりその速度の維持は困難である。おそらく無理である。残念なことに、次の便は2時間後の16:15で、これに乗ると島にほと



んど滞在できないか、無理に滞在しても日が暮れる。とっとと止めて出直すという選択肢も考えられるが、往復の運賃と自転車代4000円が少しもったいない。どう判断するか。

今まで日本中を乗り鉄でほっつき歩いた身からすると、類似の事態は数限りなくあり、危ない橋は何度も渡ってきた。筆者は、14:15の船が遅延してくるという可能性にけることにした。一般に鉄道に比べて、航空機、船、バスの定時性は低い。別に船会社が

怠慢をこいているのではなく、一本の線路を共有する鉄道と違い、二次元の動きができる（航空機は3次元）交通機関は、遅延が他に影響することは少ないからだ。今までの経験から算定すると、勝率は3割くらい。3割勝てるのであれば、勝負だ。ただ勝率を上げるためには、できるだけ早く堀切港に着く必要がある。

足が壊れるくらいママチャリを漕ぎ、14:25堀切港に着いた。堀切港には、10人くらいの間人がいて、それぞれがキャリーバックや釣り竿を持っている。2時間後の船のために栈橋にこんなに客が集まっていることはない。これは勝利である。おじさんから切符を買い、勝利を確信して、次の船は何分後かと聞くと「5分後」とのことであった。船は、何らかの事情で15分遅延していた。堀切港は、景色としては、瀬戸内海の渡船乗り場となんらかわらない。適当に波もあるし、水鳥が群れ、釣り人が糸を垂らしている。しかし、大きく違うのは、磯の香りが全くしないことである。

小ぶりの船がやってきた。定員は50人くらいである。これより小さな海の渡船はいくらでもあるから、湖の渡船としては大きい方であろう。というか、湖にある島で人が定住し、橋でつながっていない島は日本には沖島しかないので、比較するものはないのだ。壁には、島の小学生の描いたポスターや兵庫が貼られている。標語は若干語呂が悪いが、これもご愛嬌である。

沖島は、桜が満開であった。沖島の人口は270人程度とのことである。昨年5月に訪問した愛媛県の魚島（第3話参照）の倍くらいである。魚島では、店が無く苦勞したが、沖島はそこそこ店があり、観光客もいる。

島に対する礼儀にしたがい島を一周することとする。

まず、船を降りると漁協がある。これは、多くの離島に共通している。ここ



で食べ物は買える。たまたま、この日に来たからかもしれないが、桜のピンク、菜の花の黄色、木々の緑、カラフルで美しい。

港から反時計回りに5分くらい歩いたところに小学校がある。特にフェンスもなく、路を歩いているうちに自然と校庭に入ってしまうという、世知辛い今日では珍しい解放感である。校庭には4本くらい満開の桜があり、明らかに島外の人がゴザを敷いて花見をしている。大阪市内ならば、通報ものの行為である。筆者も、カメラのズームを最高にして、水鳥を撮影したりしていたが、

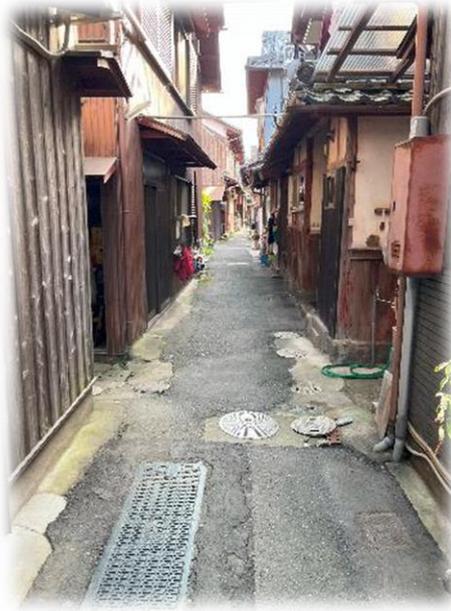
小学校の校庭でこのような行為をするのも通報ものである。さらに前に進むと、人家が絶え、須磨の海水浴場を1000分の1にしたような砂浜がある。「水泳場」との看板が立っている。琵琶湖の海水浴場が、「海水」浴場ではなく、「水泳場」と表示されているのは薄々知っていた。なお、付言すると、淡水は海水に比べて浮力が小さいため、沈みやすい。琵琶湖岸でバーベキューをして酒を飲んで「水泳」をするのは、結構危険な行為である。



さらに進むと、広島 of 厳島神社を1000分の1にしたような神社がある。由来はよくわからないが、すぐそこに暴力装置をもった戦国時代の最高権力者がいたわけだから、この小さな島もいろいろな苦勞（または恩恵）があったことだろう。この付近から、道は海岸線から離れ山道に入る。島を海岸線にそって一周する道はない。山道は結構急で、春先なので蠅のような昆虫がまとわりつき不快である。最高地点付近で、島の西側の展望が広がる。湖西線近江舞子付近の比良山系が見えてい

る。今日は少し霞んでいる。

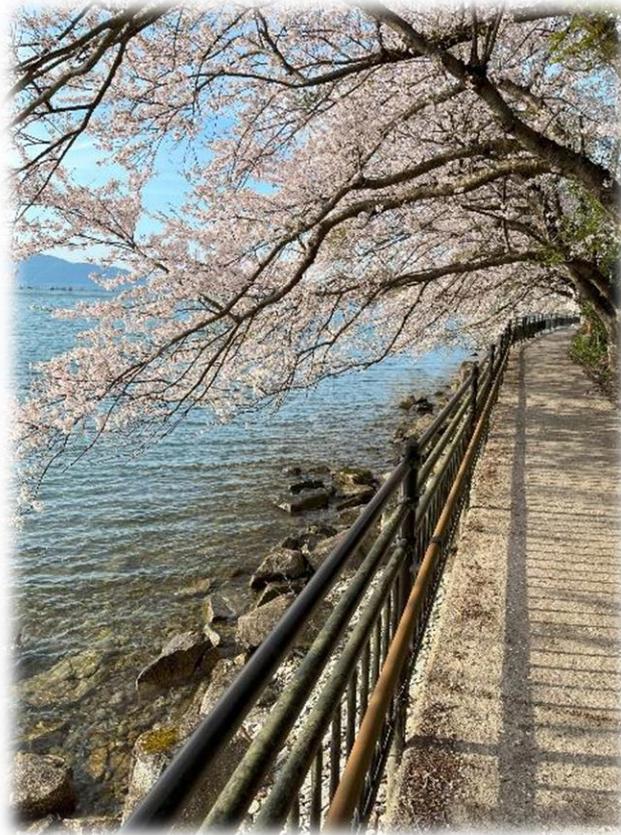
山道を歩き続けるのはしんどいので、南側に山を下りる道に入る。ほどなく、先ほどの小学校の裏に出る。山道を相当歩いた気がするが、まだ小学校なのか。いったん港まで戻り、島の中心集落を抜けて、西側の道を歩くことにす



る。中心集落には細い路地が入り組んでいる。「港に近い中心集落の細い路地」は、小さな離島のまさに共通項である。微妙な道の福音の違い、路地が傾斜しているか否か等の細かい違いはあるが、記憶の整理がつかないほどによく似ている。

島の西側の海岸線には、美しい桜並木がある。ちょうど西日を浴びて、光っているようである。桜の向こうは広大な琵琶湖。どう考えても海である。これがすべて淡水なのは、ほんとうに不思議な気がする。まさに、この水を止められたら大阪は死ぬ。ただし、これ

れに対しては、それをすると滋賀県が水浸しになるとの反論もある。



17:00の渡船は定刻に出航する。乗客は、行きの船のメンツと半分くらいは同じである。その中には、釣り人も混ざっている。釣りの趣味に対する造詣はほとんどないが、この島まで来て、2時間くらいで帰るということもあり得るのだろうか。10分ほどで、本土の堀切港に到着。考えてみると、本土とは言っても、世界レベルで見ると本州(Honsyu Island)は島である。とすると、沖島は、島の中にある湖の中にある島といえる。

さて、近江八幡駅までまた自転車を漕がなければいけない。ただ、帰りは時間に縛られないので、のんびりと近江牛の小屋とかを見ながら1時間以上かけて帰った。なお、自転車で堀切港に行く場合は、近江八幡ではなく、能登川駅から来た方が近いと渡船のおっさんが言っていた(能登川駅にレンタサイクル屋があるのかは不明)。また、近江八幡駅から堀切港へのバスもあるらしいし、車で行けば駐車場もある(有料)。というわけで、近江八幡駅から自転車で堀切港というルートは、どう見ても悪手であった。



## 執行部だより

研修担当副幹事長の今井力（56期）です。

本年度を含めて研修担当副幹事長2回、研修委員長2回を歴任しており、研修について私の思うことは度々執筆したような気がします。なので、今回の執行部便りでは、敢えて研修とは関係のないことを書きたいと思います。

私は、愛媛県出身です。出身高校は今治西高校というところで、隣の市から、1時間に1本しかない電車で通学していました。帰りの電車にタッチの差で乗り遅れると、1時間近く今治駅で過ごさなければなりません。スマホもない時代で、確か英単語帳を見たりして電車を待っていたように思います。

高校時代の部活はサッカー部でした。今もサッカーは好きですが、プレーすることはなく、もっぱら試合観戦です。

好きなサッカークラブは、イングランドのプレミアリーグの「アーセナル」です。日本代表の富安健洋選手も所属していることをご存じの方も多いかと思います。私は根っからのグーナー（アーセナルファンの愛称）で、アーセナルの試合は必ず生中継で観戦しています。もっとも現地はイングランド、キックオフは、日本時間で25時30分とか27時30分などが多いです。ミッドウィーク（平日開催）の試合の後は、仮眠をとっての出勤となります。そこまでして観たいかと尋ねられても、迷うことなく「観たい」と答えます。

ところで、サッカーは得点がほとんど入らないから観るのがつまらない、という意見もよく聞きます。それはそれでひとつの意見ですね。でももしかすると、「推しの選手」ができると、観るのが面白くなるかもしれませんよ。

少し興味のある方は、『林陵平のサッカー観戦術』という本を一読されることをお勧めします。

ちなみに私の推しは、アーセナルのキャプテン Ødegaard（ウーデゴール）です。

サッカーの他にも、靴磨きが好きだったり、B'zが好きだったり、釣りが好きだったりします。

とまあ、そこそこ多趣味でマニアックな副幹事長による、何だかまとまりのない記事ですが、本年度一年よろしく願いいたします。



## あとがき

---

広報委員会では、会員の皆様から原稿を大募集します。ぜひ、ご連絡ください。

- 1 今までのニュースレター・会報の記事に対するご意見
- 2 子育て体験談
- 3 変わった国に行った旅行記
- 4 ペットや趣味の紹介
- 5 感動した本、マンガ、ゲームの紹介

などありましたら、以下のアドレスにご連絡ください。

広報委員長 河野雄介 [y.kono@swlaw.jp](mailto:y.kono@swlaw.jp)